

# 麻酔科専門医研修プログラム (静岡医療センター)

## 1 はじめに

このプログラムは、静岡県東部地域(富士川以东)にある複数の麻酔研修認定病院が、各病院の特色を活かす中で、日本麻酔科学会の専門医取得を目指す若手医師に提供するものです。



単独施設では症例や麻酔関連業務の偏りがありますが、日本麻酔科学会が示す教育ガイドラインに沿って研修計画を組み、臨床能力の高い麻酔科医の養成のためのプログラムになっています。また、このプログラムの指導医たちは麻酔専門医を志す皆さんに、私たちが今までに得た知識、考え方、技術のエッセンスを、ピットフォールも含めて、できる限りわかりやすく伝えたいと考えています。

当地は気候が温暖で、海の幸、山の幸に恵まれ、近隣に富士山や伊豆の温泉地などもあり、また東京・横浜へのアクセスも便利で、すぐれた生活環境にあります。このプログラムに一人でも多くの方が参加していただき、当地域全体の麻酔科医増加と医療レベル高度化に寄与されることを期待しています。

我々は、麻酔科医として専門知識や技術をしっかりと学びながら、地の利を活かして自分の時間を有意義に過ごす「ライフ&ワーク・バランス」の実現を目指しています。

プログラム統括責任者 静岡医療センター 統括診療部長 小澤 章子

## 2 目的

麻酔科専門医の取得に必要な麻酔トレーニング(知識・技術の習得)を、各病院の特徴を生かして研修します。

## 3 研修病院群

### (1) 専門研修基幹施設

独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター

### (2) 専門研修連携施設

- (必須) 静岡がんセンター
- 順天堂大学医学部附属静岡病院
- (選択) 伊東市民病院
- 静岡県立総合病院
- 県立こども病院
- 浜松医科大学医学部附属病院

## 4 専攻医受入数

3名

## 5 研修期間

4年間

## 6 研修計画（例）

表記はあくまでも例であり、個別に調整します。

1年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	静岡医療センター または 静岡がんセンター または 順天堂大学静岡病院											

2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	静岡医療センター または 静岡がんセンター または 順天堂大学静岡病院											

3年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	静岡医療センター または 静岡がんセンター または 順天堂大学静岡病院											

4年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	選択（責任基幹、必須、選択すべてから選択） または 静岡医療センター											

## 7 問い合わせ先

静岡医療センター 管理課庶務係長

静岡医療センター 統括診療部長（麻酔科部長・集中治療部長併任）小澤 章子

当院は450床の急性期病院で、循環器、がん、救急、総合的診療を4つの柱として診療を行っています。麻酔科管理件数は例年1500件前後で、各科の一般的な手術が行われています（小児科、産婦人科を除く）。手術室の隣に集中治療室があり、術後および集中治療管理の体験で、手術中の麻酔管理の質は格段に向上します。経験値としてある程度の症例数は必要ですが、数もさることながら、1症例、1症例を振り返り積み重ねることが質の良い経験になると考えています。

静岡県立静岡がんセンター 名誉院長兼麻酔科部長 玉井 直

当院はがん専門病院で、手術症例の大部分は成人のがん患者です。毎年手術患者は増え続け、2018年度の総手術件数は4736件、うち全身麻酔は3647件で、がん手術に限れば国内3位の手術件数です。ダヴィンチ手術を含めた体腔鏡下手術が増加し、また術後の抗凝固療法が積極的に行われるようになり、硬膜外麻酔併用症例の割合は減少しており、全体の4割程度です。肺がん、食道がんなど胸部外科手術は毎週12件を超え、脳神経外科の開頭術は週1~2件ありますが、6歳未満の症例は年間10件以下です。近年75歳以上の高齢患者が増加していますが、熟練した外科医が執刀しているため、手術合併症は非常に少ないのが特徴です。これらの麻酔症例を経験し、標準的な麻酔管理を確実に習得することを目標としています。

順天堂大学医学部附属静岡病院 麻酔科・ペインクリニック教授 岡崎 敦

当院は、麻酔科管理手術症例4300例の約30%が緊急手術であり、多彩な救急患者に対応しています。また、大学病院として高度な手術もおこなわれてお

り、高い技術の麻酔管理を求められます。特徴的な症例は、ドクターヘリで搬送される心臓血管緊急手術や交通事故などによる多発外傷の脳神経外科、整形外科、外科や泌尿器科の緊急手術、危機的大量出血の原因となる産科緊急症例を経験できる数少ない施設であります。